

高齡者虐待防止指針

社会福祉法人 報恩積善会

1. 基本的理念

高齢者の尊厳を保持するため、いかなる時も入所者に対して虐待を行ってはならない。そのため、社会福祉法人報恩積善会の基本的な考え方としてこの指針を定め、職員が高齢者虐待について理解し、虐待を防ぐ方策を共有する。

2. 定義

(1) 身体的虐待

高齢者の身体に外傷が生じ、又は生じるおそれのある暴行を加えること。

(2) 介護の放棄、放任

意図的、結果的であるか問わず、行うべきサービス提供を放棄又は放任し、高齢者の生活環境や身体、精神状態を悪化させること

(3) 心理的虐待

高齢者に対する著しい暴言又は著しく拒絶的な対応その他の高齢者に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと。

(4) 性的虐待

高齢者にわいせつな行為をすること又は高齢者にわいせつな行為をさせること。

(5) 経済的虐待

高齢者の財産を不当に処分すること、その他該当高齢者から不当に財産上の利益を得ること。

3. 高齢者虐待・不適切なケアの未然防止の取り組み

職員は、高齢者虐待・不適切なケアを未然に防ぐために以下の取り組みを実施する。

- (1) 事故や苦情の詳細な分析と再発防止に関する取り組み。
- (2) 提供する介護サービスの点検と、虐待につながりかねない不適切なケアの改善、介護の質を高めるための取り組み。
- (3) 職員が一体となり権利擁護や虐待防止の意識の醸成と認知症ケアに対する理解を高める研修・教育の取り組み。
- (4) 職員のメンタルヘルスに関する組織的な取り組み。
- (5) 指針およびマニュアルの定期的な見直しと周知。
- (6) 虐待防止委員会の設置。

4. 虐待発生の考え方

(1) 虐待の発見及び通報

- ①職員は、入所者、家族または職員から虐待の通報があるときは本指針に沿って対応

しなければならない。

- ②入所者の虐待が疑われる場合には、虐待防止担当者に速やかに報告する。
その後、「虐待発生時の対応の流れ」に基づきすみやかに解決につなげる。

(2) 虐待に対する職員の責務

- ①施設内における高齢者虐待は外部から把握しにくいことが特徴であること、認識しにくいことが特徴であることを認識し、職員は日頃から虐待の早期発見に努めなければならない。
- ②虐待防止担当者は施設において虐待を受けたと思われる入所者を発見した場合、速やかに虐待防止責任者へ報告する。
責任者は虐待防止委員会を開催し解決にあたる。また法人本部へ報告するとともに速やかに区市町村の担当者へ報告する。

5. 虐待防止委員会の責務

- (1) 虐待のない事業所づくりを目指し、虐待発生時には速やかに適切な対応をとることで入所者の尊厳を守ることができるように取り組んでいく。また法人内の事業所における虐待等が発生しないように虐待の防止のための対策を検討する委員会を年2回以上、職員教育と注意喚起を目的に職員研修を年2回以上開催し、虐待の防止に積極的に取り組んでいく。

6. 虐待防止責任者と担当者の責務

虐待防止責任者には施設長（管理者）、担当者には虐待防止委員会委員がその職務にあたる。

(1) 虐待防止責任者の責務

- ① 虐待内容及び原因の解決策の責務
- ② 虐待防止のための当事者との話し合い
- ③ 虐待防止に関する一連の責任者

(2) 虐待防止担当者の責務

- ① 入所者からの虐待通報受付
- ② 職員からの虐待通報受付
- ③ 虐待内容と入所者の意向の確認と記録
- ④ 虐待内容の虐待防止責任者への報告
- ⑤ 虐待内容について虐待防止委員会を開催

7. 指針の閲覧について

当法人では高齢者虐待防止指針は求めに応じていつでも施設内に閲覧できるように

すると共に、当施設のホームページにも公表し、いつでも入所者及び家族が自由に閲覧できるようにします。

8. 記録の保管

虐待防止対策委員会の審議内容、法人内における虐待防止に関する諸記録は5年間保管します。